

～小学校：家庭・ 中学校：技術・家庭の家庭分野～

	小学校 家庭	中学校 技術・家庭 家庭分野
教科目標	生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力・実践的な態度の育成 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、 <u>家庭生活を大切に</u> する心情をはぐくみ、 <u>家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度</u> を育てる。	自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、 <u>家庭の機能</u> について理解を深め、 <u>これからの生活を展望</u> して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
内容構成	<p>小・中同じ枠組みを持つ4つの内容 (全て履修)</p> <p>8つの内容から4つの内容へ A 家庭生活と家族 B 日常の食事と調理の基礎 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境</p> <p><u>ガイダンスと学習全体を貫く視点の設定</u> <u>社会の変化に対応する視点からの内容の再構成</u> ・ <u>家庭生活と家族を大切に</u>する心情の育成 ・ <u>食育の推進</u>、<u>五大栄養素の基礎的事項の指導</u> ・ <u>環境への配慮</u> <u>言語を豊かにし、知識及び技能を活用して生活の課題を解決する能力をはぐくむ視点の重視</u> <u>伝統や文化に関する教育の充実</u> <u>我が国の伝統的な日常食としての米飯とみそ汁</u></p>	<p>2つの内容から4つの内容へ A 家族・家庭と子どもの成長 B 食生活と自立 C 衣生活・住生活と自立 D 身近な消費生活と環境</p> <p>履修方法の改善...「生活の課題と実践」に関する指導事項については、3年間で3つの事項から1又は2事項を選択して履修 A(3)エ 家族又は幼児の生活についての課題と実践 B(3)ウ 食生活についての課題と実践 C(3)イ 衣生活又は住生活についての課題と実践</p>
	指導計画の作成と指導	<p>平成22年度第5学年～ 2年間を見通したもの (新学習指導要領の内容を卒業までに履修) 中学校の内容につながる基礎的・基本的 事項を明確にして指導するように配慮 新しい内容を踏まえた題材の開発と教育環境の整備 ・ガイダンス・「自分の成長」・「食事の役割」・「五大栄養素」・「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光」・「環境に配慮した生活の工夫」など</p>
社会の変化への対応	<p>少子高齢化、食育の推進、持続可能な社会の構築など、社会の変化に対応し、知識・技術を活用して生活の課題を解決できる能力と実践的な態度の育成を重視 内容の取扱いに、「食に関する指導については、家庭科、技術・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること」と明記</p>	
言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動の充実 自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて、生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し、考察する学習活動の充実 生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実
授業時数	<p>現行の時数と変更なし 小学校 第5学年 60時間 第6学年 55時間</p>	<p>現行の時数と変更なし 中学校 第1、2学年 35時間 第3学年 17.5時間</p>

備考